

令和6年度 大妻女子大学 児童臨床研究センター

特別支援教育講座 テーマと概要

実施日：9月21日（高橋ゆう子）

テーマ：「特別な支援を要する」事態の理解と支援のあり方

概要：子どもや子どもをめぐる事態の理解のありようは、実はさまざまです。多様性やインクルーシブという視点が求められているからこそ、子ども（相手）ではなく、自身の思いや考え方（大事にしたいこと）も見直してみる、そのような機会になればと考えています。

実施日：9月21日（吉田明子）

テーマ：「支援の継続と引継ぎ」見落とされがちなポイント

概要：CASEの生徒さんには、毎年、進学や進級に必要な支援の内容を引継ぎをするとき大切にしているのは、保護者が学校と面談をした記録を必ず残すことです。

情報共有、これからの支援を「個別の支援・指導計画書」を使い残していくのです。

これまで、小・中・高・大学から就労において様々な対応をしてきましたが、そのなかで上手くいくケースには必ず記録が活躍しています。本人の幸せのために大人ができる支援をお伝えします。

実施日：10月19日（椿祥子）

テーマ：18歳時の社会的自立を目指した意図的な療育

概要：新人看護師の頃、家庭の事情で長期入所している思春期の娘を受け持ちました。当時の私では理解しきれないほどの複雑な感情を抱えながら生活している彼女を目前に、自分の力のなさを感じました。同時に、彼女と自分自身の中学生の頃とのあまりの違いに憤りを感じ、何とか彼女が楽しく充実した生活を送れないかと夢中になって関わりました。彼女が抱いた「一人暮らし」という夢に向かって、彼女と一緒に考え工夫し、怒ったり泣いたり喜んだりした日々が私の看護の原点です。彼女は、当時の2年半の関わりの中でも私の想像をはるかに超える成長発達を見せてくれたのですが、それから約15年後、その時に身につけた力を最大限に活用して、当時描いた「一人暮らし」の夢を自分の力で実現しました。彼女から、私は、「今をどう過ごすかということが10年後15年後の未来を大きく左右する」ということを教えてもらいました。

『10年後15年後、18歳で児童福祉法を卒業するときに、社会の中で生きていく力をつけるために意図的に支援をしたい』という強い思いを胸に、その実現のために、「重症心身障害児向け児童発達支援・放課後等デイサービスふわっと」を開業しました。今回は、そこでの2年間の支援とお子さんの成長発達をご紹介したいと思っております。お子さんの可能性は無限大です。それを職員の方々や保護者の方々と共有しながら過ごす日々は、今の私の心を豊かに満たしてくれています。

実施日：10月19日（鳥海順子）

テーマ：発達障がいの理解と支援

概要：文部科学省の行った令和4年度の調査によれば、学習面や行動面で著しい困難を抱えている子供たちは義務教育段階で全体の8.8%在籍するとの結果が出ています。多様な子供たちと向き合い適切に支援するために、このような困難さをどのように理解すればよいのかを考えたいと思います。本講座では発達障がいの中から特に自閉症スペクトラム症、注意欠如多動症、学習障がいを取り上げて、障がいの基本的な理解やそれぞれの障がい特性に応じた支援の方法をわかりやすく説明します。

実施日：11月2日（加藤奈保美）

テーマ：「幼児期の育ちを考えるー相談事例からー」

概要：筆者が勤務する大学の相談室では発達に課題をもつお子さんとその養育者による相談が少なくない。そうした事例をもとに養育者が子に、支援者が子や養育者に「心を寄せる」というかかわり方について再考したい。幼児期における子ども成長は目覚ましい。ゆえに発達に偏りやゆっくりさをもつ子にとってはつまずきや試練が生じやすく、養育者は育児への不安が募りやすいように思われる。そうした養育者や子を支え、育むあり方について考えをめぐらせてみたいと思います。

実施日：11月2日（加藤裕美子）

テーマ：障害のある子どもの理解と保護者支援について

概要：子どもをいかに理解するかという原点に立ち返り、実態把握の方法について考えてみたいと思います。また、何らかの弱さや障害が心配される子どもを懸命に育む保護者の心の理解と心理的支援についても具体例を通してお伝えします。

実施日：11月9日（下山直人）

テーマ：発達の基盤となる自立活動の指導について～教育の視点をどこにおくのか～

概要：特別支援学校では、すべての子どもに自立活動の指導が行われます。一人一人の障害による困難さの軽減や改善を図り、各教科等の学習が効果的に進められるようにする学習を行います。この指導は、小学校等でも障害のある子どもに必要とされるものです。しかし、自立活動の指導が適切に行われているかといえば心配な点も少なくありません。この講座では、障害の重い子どもや自閉症の子ども自立活動の事例を通して、自立活動の指導について考えるとともに、障害のある子どもと向きあうときの基本的な在り方を提案したいと思います。（

実施日：11月9日（綿貫愛子）

テーマ：本人理解に基づく特別支援教育—どう見え、どう聞こえ、どう感じているの？—

概要：皆さんが日頃、指導・支援する、発達特性のある児童生徒は「どう見え、どう聞こえ、どう感じているのか？」考えられたことはありますか。発達障害（神経発達症）とは、脳機能の違いにより、物事の捉え方や行動パターンに違いがあり、そのために日常生活に支障のある状態・状況のことをいいます。本人の世界を理解することが、教育や支援のスタートであり、本人が困っている状態・状況を解消すること、そして、本人の在り方生き方を支えることが本質です。学校現場で働く、発達障害当事者が感じていること、考えていることをお話しします。

実施日：12月7日（若井広太郎）

テーマ：幼稚園や小中学校における気になる子の理解と支援

概要：幼稚園や小中学校に在籍している気になる子どもの理解と支援について一緒に考えてみませんか。具体的な体験活動や教材教具のアイデア、支援方法の紹介などを通して、就学前、学齢期における多様な子どもたちの学びをどのように支えるかを考えます。教育現場で子どもたちに関わっておられる幼稚園、小中学校の先生に加えて、さまざまな立場の方にもご参加をいただけましたら嬉しいです。

実施日：12月7日（高橋ゆう子）

テーマ：特別支援教育における対話の活用

概要：対話という言葉は、最近よく耳にしますが、その定義や使われ方もいろいろで使う人によってだいぶ異なるという印象があります。支援につながる子ども理解のため、また、子どものために支援につながるように、対話の活用について、受講者のみなさんと考えてみたいと思います。